



# おひさま通信

VOL. 18

2017年9月6日発行

特定非営利活動法人共同子育て広場おひさま（以下「おひさま」）は、1986年以来活動をすすめてきた「すぎの子共同保育所」の保育実践をベースに新しく地域の子育て支援センターとしての役割を担いたいと2005年6月24日に設立・認証されたNPO法人です。2016年4月からは徳島市の認可を受けた「木のいえ共同保育園」の運営主体として様々な活動をしています。

おひさま通信は、会員や地域の方々を結ぶ機関誌として、おひさまの諸行事の案内や報告、木のいえ共同保育園の子どもたちの様子などを掲載しています。

〒779-3125

徳島市国府町早瀬字雀ヶ原218番6

Tel/Fax 088-642-5933

NPO HP <http://npo-ohisama.org/>

## 園開放報告

### ロールマット・音楽リズムをしよう

おひさまでは、全ての子どもたちの幸せを願い、たくさんの方々との子育ての喜びを共有したいと考え、年間5～6回ほど園開放事業を開催しています。

今号では、ロールマットと音楽リズムの様子をお伝えします。ロールマットの上で子どもたちの身体をマッサージし、血液の循環を良くすることで、新鮮な酸素が脳まで届けられます。背骨を小さく左右にゆらし身体のバランスを整え、脱力も促しています。始めは、ロールマットの上で横になることを怖がりびっくりして泣き出してしまいうちもいますが、しばらくすると心地よさを知り、身体力を抜きリラックスします。あまりの気持ちよさに眠ってしまう子もいるくらいです。



音楽リズムでは、すべての動きに足親指を意識し、普段使わないような背筋や内太ももの筋肉などを動かすのですが、大人達は沢山の汗を流し悪戦苦闘。日頃からリズムを楽しんでいる子どもたちは、生き生きとした表情で身体を動かします。たくさんの友だちと一緒に笑顔で身体を動かす子どもの姿に、大人達も嬉しくて笑顔が溢れていました。リズムの曲が終わった瞬間、大人達から子どもたちへ大きな拍手と「すご～い！」との歓声がいっばいに響きわたります。

たくさんの大人たちに見守られる中、子どもたちは誇らしげな表情で「もっと動きたい」と心弾ませ、大人達は身体を動かす心地よさを存分に味わい、「心も体もスッキリしました」と言って下さいます。継続して参加して頂ける方も増えていきました。

これからもロールマットや音楽リズムを通して、参加して下さる沢山の人が「もっとしたい」と思える内容を工夫し、子ども一人ひとりの心身の育ちを共に喜び合っていきたいと思っています。



## 共保まつりのお知らせ

認可化の取りくみと30周年記念事業のためにしばらく開催が見送られてきた共保まつりが3年ぶりに復活します。先日一回目の実行委員会を開催しました。

### 開催日： 11月11日(土) 10:00～

自分たちでおまつりを作り上げる過程を楽しみながら、人とのつながりを深め、さらに地域へ”共同”の魅力を広げていけるような取り組みを進めていきます。詳しい日程や内容は、おってHP等でお知らせいたしますので、おたのしみに！

親子で楽しむ草木染めワークショップ第4弾

### 身近な花の色で染めよう

今年も染色家123【HiFuMi】尾形さんを迎え、草木染めワークショップを開催します。今年は園芸で人気のマリーゴールドと、秋の河原でよく見るセイタカアワダチソウを使って染めていきます。身近な草花が生み出すあたたかな色に、親子で一緒に親しみましょう！

日時：10月14日(土)9:00～12:00 場所：木のいえ共同保育園

対象：3歳以上の子どもと保護者（弟妹の保育は受けられません）

定員：親子25組（50名）※定員になり次第受付終了

参加費：おとな 300円(おひさま会員100円)  
こども 200円 ☆別途染料代が必要です。

染料：バンダナ1枚 180円程度  
☆染料は1人1枚まで 持込は不可です。

持参物：汚れてもいい服装と靴



昨年の様子

## 共保 創立30周年記念誌 発行のご案内

昨年度より編集を進めておりました、すぎの子共同保育所（現木のいえ共同保育園）創立30周年記念誌「つなぎあう手」が出来上がりました。

今も昔も変わらない子ども達の様子や、見守る大人達のあたたかな眼差しを感じる事が出来る記念誌となっています。

1冊2,000円で木のいえ共同保育園内に販売しています。ぜひご購入ください。

## 会員募集

共同子育て広場おひさまは、子育てが楽しくなる、子どもの目がいきいきと輝く活動に取り組みます。

行事に参加できないのに関わらず、おひさまを応援したいという方など、入会をお待ちしております。（入会金なし）

【年会費】

★正会員：5,000円 ★賛助会員：一口1,000円

【会員特典】

☆総会決議権（正会員のみ） ☆おひさま通信配布

☆イベント割引

（例：園開放通常参加費大人300円⇒100円）

## 寄付のお願い

随時寄付をお受けしております。

【会費、寄付振込口座および振込名義】

※平成28年4月より振替口座の番号が変わりました。

郵便振替口座 01620-0-101329

口座名称 特定非営利活動法人共同子育て広場おひさま

# 自然の中での豊かな生活を土台に取り組んだ劇づくり



共保の生活発表会は、仲間との関わりや表現・言語などの内面の発達を見てもらうことをねらいに、一年間の集大成として毎年2月に実施しています。徳島市の認可保育園となって一年。多くの方々のご協力により守られてきたいつもと変わらない環境で、私達が大切にしたい保育をたくさんの仲間と続けられていることが本当にありがたいと感じます。豊かな自然の中、仲間との直接体験を通して育ちあう子どもたちの元気な声も昔と変わらず響いています。今回は、4歳児クラスの生活発表会の劇づくりの取り組みを通して、この一年間を振り返りたいと思います。

**春** 2016年度は、5歳児2名、4歳児16名の、4・5歳児合同クラスでした。4歳児に新入4名をむかえた春、毎日のお花見散歩に出かけ、舞い散る桜吹雪の中をかけまわり、友だちと感動の共有を重ねてきました。河川敷に行けば、一面黄色いタンポポや真っ白なツメクサの絨毯。寝転んだり夢中で家族へのおみやげを摘んだり花冠を作ったり。テントウムシやアリ・バッタなどの自然の中の小さな仲間にも興味を示し、一緒に追いかけて楽しんでいました。



**夏** 薄いピンクの桜が黄緑の葉桜に変わり、緑が濃くなってきた初夏は、

城山や眉山に出かけ、ツツジを見たり、サンキライの葉を採ってきて柏餅を作ったり…。園舎裏の果樹園ではサクランボやキンカンなど、食べられる植物とのおいしい出会いもありました。ギンギラギンのおひさまが顔を出した夏は、泥んこ！プール！に大はしゃぎ！最初は顔がつけられなかった子ども、バシャバシャと泳ぐ仲間に憧れ、自分の中で目標を決め、毎日水に向かい、からだを自在にコントロールできるようになってきました。日照りが続くと、園庭の田んぼにバケツで何往復も水やりをする苦労も知り、雨が降った後の畑の土は柔らかく、草がととも抜きやすいことも知りました。



**秋** 遠くに見える眉山が紅葉で

色づいてきた秋には、待ちに待った運動会があります。夏のプールでついた自分のからだの手応えを土台に、様々な競技に挑戦しました。春には、出会いがしらによく友だちにぶつかっていた子どもたちが、2人1組で大きなバトンを互いの距離を意識しながらスムーズにつなだ時は、しなやかに成長してきた身体を感じました。丈夫になってきた足腰で、秋から冬にかけて、とんとん散歩の距離を延ばしていきました。2時間かけて登った眉山山頂からや、史跡公園の芝を滑りながら見た空の透き通って高いこと！吸い込まれそうな空に色とりどりの落ち葉が風に舞い、「落ち葉吹雪じゃ！」と、一緒に遊ぶ子どもたちでした。

## 冬～生活発表会の取り組み

冬に入り、新入児も一通りの生活が身についてきて、仲間とのルール遊びが楽しくなる一方で、言葉で上手く伝えられなかったり、ルールの理解が難しかったりして、遊びからふらっと離れていってしまう子どももいました。まわりの仲間が様子を気にかけることも少なく、クラス集団全体で一人一人が輝きながら遊びこむには…と考えていた頃に発表会が近づいてきました。季節の移り変わりを自然の中で感じ、成長してきた一年。この仲間との共有体験を生かしたいと、『森は生きている』の劇づくりに取り組むことになりました。

長い物語で難しい表現も出てくるのですが、5歳児はすぐに話の筋を理解して自分達の言葉にしていました。最初は5歳児2人の主役にリードしてもらいながら、4歳児は毎日違う役に挑戦。みんなでカラスになりきって踊りを考えたり、どのように動いたらウサギとリスの追いかっこに見えるか相談したり、先に演じてみせた仲間の面白く素敵な表現を、次の子は自分の表現も追加し、動きや言葉も増えていったのでした。子どもたちの中で点と点だった物語が、一つの物語へとつながり理解を深めていきました。日を重ねるごとに、仲間知らずの姿は少なくなり、舞台の上で輝く一人一人をキラキラした目で見つめ、笑い合ったりアドバイスし合ったり、みんなで目的を共有し、つくりあげていく面白さをクラス全体で感じた発表会までの2週間でした。

共保では、大人に与えられたセリフではなく、自分達で言葉を考えていくことも大切にしています。10月の精が、「(娘は)どんぐりを全部とらずに、森の動物たちに残しておいてあげたんだよ。やさしいね。」と、娘の優しさや賢さを称える言葉を考えました。秋に自分達が眉山にあそびに行って、木の幹に見つけた穴を「りすが住んどんかな？」とのぞきこみ、足元に落ちていたどんぐりを拾い「このどんぐり食べるのかな」などと、思いを馳せた経験を言葉につむぎだし、仲間の精も「うんうん」と、うなづき合い、情景が浮かんだようです。道具や背景セットも自分達で作りました。春夏秋冬の背景を塗るとき、「何色を使う？」ときくと、「春は～桜のピンク！タンポポの黄色！」「黄緑も！四葉のクローバーとったよ！」「秋は、イチョウの黄色と…」「さつまいもの赤も入れる！」と、自分達の直接体験と季節が繋がって、みんなで感じた四季を表現した彩豊かな背景が出来上がりました。

役を固定してからの後半の1週間は、物語を進めるための少し難しい言葉も必要になってきました。12月の精と1月の精が森を閉じるために雪を降らせる場面。雪が積もったら道が歩けなくなるところまではなんとなく解ったのですが「森を閉じる」ということがよくわかりません。ところがちょうど本番数日前！なんと徳島にはめったに降らない雪が降ったのです。しかも結構な吹雪！原作では冬の嵐で道を閉じるのですが、吹雪なんて経験したことのない子どもたちは「雪よ降りー！すべての道に雪よ降りー！」「森を閉じよう！」のセリフに、吹雪をおこすほどの迫力のない小さな声しかでませんでした。しかしまさに今、園庭では大きな雪の粒が激しい風と共に窓ガラスに吹き付けています。みんなで急いで外に駆け出て、築山に登り指を高く掲げて、呪文を唱えます。吹き付ける雪風に向けて聞こえない！段々声が大きくなり、1人が「雪よ降りー！」と叫ぶと吹雪の向こう側で何人もが同じように天を指し「森を閉じよう!!!」と叫び返します。仲間へ届いた!!大興奮の子どもたちが園庭で叫び唱える呪文にますます強くなる吹雪。こんなに面白いことがあるのでしょうか。部屋に帰ってきて、寒さも忘れて劇の続きが自然とはじまります。もうそこには小さな声で恥ずかしそうに唱えていた姿はどこにもなく、自信満々に杖を高々と上げて呪文を唱える12月・1月の精、その世界を具体的なイメージをもって感じながら見つめている仲間達の姿がありました。

4歳児は、「仲間をくぐって自分に気付く」時期です。仲間と憧れ積極的に関わっていく中で、仲間の姿をより身近に感じ、大好きな仲間のようになりたいと試行錯誤していく日々の中で、自分にかえし、新しい自分につくりかえていく喜びを知っていきます。その仲間との充実した日々を豊かに展開していくことを大切に、1年間過ごしてきました。身体づくりや身辺自立から始まった春、自分のことで精いっぱいだった姿から、自然の中で自分達で考えて生活やあそびを楽しみ、仲間と心を動かし、イメージ豊かにごっこ遊びをする面白さを味わい、互いの良さや魅力に気づき合った子ども達。

春からの毎日の共保での生活の集大成が、この取り組みへとつながり、今年もまた、クラス集団の育ちあいを仲間や大人と共にみんなで喜びあうことのできる発表会となりました。